

家方秘笈及仙方條例

附錄

家方秘笈仙方條例
○一編業方我王父法眼反之翁所受
記而和蘭之瘍医ハルマエスカツニ所傳

武
337
野



門中武
第 197
卷 3止

卷之三

三

○一編某方稅王父法眼反之翁所受
記而和蘭之應區以比之及力以之所傳
也自 從南之朝竟文廷至之除傳而
此方以厚 侍御蓋和蘭之治法開
因也于今百有餘年矣 猷廟之朝正
保元年委區力及以者始來于肥而長
時厚 方四十一方 亦授吾人特侯
傳兵衛者為之製祖
○凡煉膏之大學不可不察火候苟火候不



家方和楚仙丹方候何
○一編某方稅王父法眼反之翁所受
記而和蘭之應區以比之及力以之所傳
也自 從南之朝竟文廷至之除傳而
此方以厚 侍御蓋和蘭之治法開
因也于今百有餘年矣 猷廟之朝正
保元年委區力及以者始來于肥而長
時厚 方四十一方 亦授吾人特侯
傳兵衛者為之製祖
○凡煉膏之大學不可不察火候苟火候不



家方秘笈仙丹方條例

○一編某方我王父法眼反之翁所受

記而和蘭之瘍医ハルマニスカツニ所傳

也自 嚴廟之朝寬文延宝之際傳而

奉此方以辱 侍御蓋和蘭之治法開

因也于今百有余年矣 猷廟之朝正

保元年垂医力スル者始来于肥而長

崎膏方四十一方療方一卷授舌人精俟

傳兵衛者為之鼻祖

○凡煉膏之大要不可不察火候若火候不

中則或老或稀盛夏嚴冬不住其用且炭火以堅實者為最紅半黑者以充文武火之候即烈火猛火緊火活火咸其稱也全紅者即文武火也老能既尽晚白灰一籠者即文火也大炭既揜元能漸息者即漫火也微火次之十中六七既為炭火散而如星者即柔溫火也巽石荊榛之余火即楚山灰火也竈下執灰幽見火者即煖暖火也這數品之候實煉膏之程式也

○唐月茶既成則名異主治若不察其性則症与

治相乘真害于人身也從以費功曰寒曰熱者純於其寒其熱者也寒勝於熱者曰之冷熱勝於寒者曰之溫冷溫相半者曰之平此五等之性相照相翼且凌且剋可以立百戰百勝之功

○卷中度量以今所通用者託之不拘金石料木一百六十錢為一斤四七錢為一兩與旧方所記多用和蘭之份量和蘭之一斤者當我

配當焉

○卷中分而為三局硬嫩流是也每方冠軍黑

圖是公註之所記也冠重墨圖者所追加也
○卷中茶名以乘...註之是翁之所錄若斯
故和譯一卷附之後

宝曆十二年夏六月

桂川國訓識

秘芟仙典方卷之上

桂川氏家方

○卫ニハラスト之部

○卫ニハラストテヤルマ

性冷

治癰疽癩疥瘰癧毒諸般惡瘡各腫瘍
經久不愈者凡万品毒瘡膿癩潰后直傳之不
歷數次頓復完膚者神妙

ヲ一リアセト十平合
ク其ツテツス 一西

右煎火開應過

セル一升

メ一ニ一 各一西半

リイタリキリヨムアルカニテイ 三匁

右名 細末下 再上漫火候 匝滷一次而故

今 ○打撲折傷此肉剥脱加 醋醋片許傳之

○犬肉尤骨損傷先敷 正ハラストチハニスイソ

二次用此膏覆貼 疼痛忽如失妙々

○又方

アキソキヤホルコ 一匁ニ 拾匁ニ フーリスホニス 十二匁

右名 溶 瀝 去 滓

リイタリキクヨムアルカニテイ 一匁 二十匁

セルーザ 十二匁 ヒツトルヨルニアルヒイ 五匁

アルエニ四匁

右名 細末投入上 菜中 頻々 研窮 錫面黄 泡消尽

后 放 令 膏 成 矣

○又方

リイタリキリヨムアルカニテイ 三拾匁 フーリスホニス

二十五匁 アキソキヤホルコ 十二匁半

右三味以 柘 棒 碾 合 盛 貯 磁 器 固 封 其 口 月 々 置 於

晴 明 顯 處 務 要 拌 孔 而 勿 令 沉 凝 如 秋 露 晦 冥 之

眩 置 之 燼 畔 令 透 暖 當 透 徹 否 則 結 聚 難 和 此

膏 成 宜 夏 元 氣 衰 之 際 宜 調 之

カニテイソイクリ 拾三兩半 子リ 用蘇油或木油

右件其上葉碾碎別用大口漁鍋盛沸湯七八分

許止并茶油投入以文武火烹之以柗槐長條

頻攪不住手若湯減則加沸湯

アルイニ ヒツルヨールニ各燒各三兩半

二味為細末以柗槐條攪烹之際急手下之如烟

氣沸騰溢鍋面則急御生鹽水呵而吹之候葉

油漸之泮和試取一塊投冷水至不老不稀得所中

則還用大冷水新汲者投入鍋中歌鍋更換類

次鍋冷茶凝即膏成矣傳云此方寬文中ハ

ルマニスカツ、萬在長崎出島貳堂所謂煉者也

○エニハラストヲクスコロースヨ 性極

治不問老少歲月階仆折傷白脫跌躑類悶欲絕

者貫通關節沫淚血脈定酸痛起去肌消散

血導大筋神妙累驗之也兼治中風筋痺等

脚氣歷節痛

カルハ又ニ アモニヤクニ 冬煮 アセイニ 五合

右三味徐々煎開 コムテシメニテイナハルス

各七合ケールハスナナ七兩 三味下之再煎和鍋面

青烟既息后 コロクスナリニ 拾五兩

マスデキス 各七両

右房細末下之厚文火煎煉一茶頃時放冷膏成矣

○又方

アモニヤクニ へタリヨム 各五両

カルハ又ニ 五両 右四味以醃醋漬一周取碾窮

マスデキス ヲリハ又ニ 各五両

コムテシメニテイ十 五両

右四味以燒耐煎化與上葉攪勻再上火

へツキ 拾両 アルホイニ 五両 ケールワス 拾五両

右三味別將淨鍋煎溶投入上葉中復再煎煉

放冷 コロシケス ヲリハ又ニ 七両半

右細末上葉火氣去后下之急手拌合

○又方

ハルス ケールワス 各十両 へツキ 十二両

コムテレメニテイ十 四両 ヲリリアセト十 拾両

右五味煎化瀉去滓

ヲリハ又ニ 七両 ヲリハ又ニ 各七両半

右三味房細末投入上葉慢火煎化膏成放冷

コロシイ 四両 右為末下

以上數件之方脂氣醋烈火毛理不密者輒生

細粟癩疹黃柏為末水調搽之即愈○折傷墮仆不能舉動者用燒酒煎滿額灌患處病夫覺微熱酸痺急用此膏攤布貼之以楊柳嫩皮丸而卷圍綿布帶子長條重疊縛定日換一次都加上方此方所施無不立驗為妙

○正ニハラストテヤキロム

性温

諸痛結核寒熱瘰癧五癭六瘤遠年在身筋急木痛者不問膿之成否並皆治之芥刃傷縫合而傳之即如神且每在癩痕
セイモニハ子キレイ十 螺 セイモニリイ子 細末

各十四 拾五西

右煎藥令如稠糊廣絹單用絞去滓

ケールワス 七兩半 ハルス コムテレメニテイ十 各五

リイタリキリコム。アルカニテイ 五西

右典上葉研化煎藥膏成矣○諸瘡上皮大而如牛領難潰者先用イニグエニトバシリコニ貼瘡頭紫黑之處用此膏覆後貼膿癩目地

○又方

セイモニイ子 セイモニ子キレイ十 各西

右二味淨水浸漬七日令如泥薄絞取汁

ハルス 三匙
チーリ。ホコハツテ 二両半 ケール。ワス
ニ匙 右三味煎化瀉去滓其上茶拌勻再煎瀉
數次將狎槐搗木拌勻俾候水氣尽為度
リイタリキリヨム。アウリイ 一匙
為細末下之即膏成矣

○又方

チーリ。イヘリコ 一両半
チーリ。カモメル 五両
右ニ味煎化
ヘツキ 一両半
ワス 各二両半
投入上茶化開瀉去滓

セイモニベ子キレイ子 各二両
セイモニリイ子 各二両
リイタリキリヨムアウリイ 二両半
右者極細末下之煎煉一透即放冷

○正ニハラトトテヤキロニコムスト 性寒

治瘤贅結核重甚鼠瘻馬刀失榮一切毒各結
毒或遷轉或留滯遠日不潰百許難得膿者
其毒輕者經宿潰其勢猛者更換一二次即見
膿周郭瘡逢皆尋消散不貸鍼砭患處頃
如失為妙凡大惡附症之癰疽一施此膏則呈
紅活紙陽身治之瑞神驗不可測

サトヂキスナルテイヤ
セイモニ子キレイ子
セイモニ子キレイ子
セイヤクニ酒浸
カルハ又ニ酒浸
ヲホツナクス

右細味房 粗末盛布裏固結其口用ヲリカモ
ル十両浸淨器經四五日後去滓

石五味用スハニスライウニ煎化
セイヤイフ
三格兩下之以柵條碾開與上茶合コロクスヲ

リエニタリ一兩半為未下之上漫火
ヲリカモニ各ニ酒浸
ヲリカモニ各ニ酒浸

二味拌白瀝入上菜中慢火煎煉候潤黑焦色
為度放冷始終柵條下令在油内徐攪白勻
任手不然則茶油偏凝不成膏○阴症患
瘡下陷内攻或大痛失采等症一朝難為膿
者用鴟雁豕鹿或黃雞之生皮椎此膏貼之
頓呈腫見膿極妙△エニハラストムスヲキニフス
エニハラストメリロト。イニクエニトハニリコニイ
ニクエニトキステイヒ等各隨症而合敷或
煎化貼之咸排膿之妙方也

○エニハラストメリロト。イニクエニトハニリコニイ

○諸痛潰后苛毒未消刺痛苦楚頑滯悶日
及刀刃所傷車馬隨什兼治

ヲハリアセー十 セイライフ各二十両
コムテレメニテイ十 七両 右三味同煎成膏△
諸瘡潰后臭口不斂作痛スハニスクルウニ
少許為細末加傳

○又方

アルホイニ ヲリハ又ニ ニ両半 コムテレメニテイ十
ケールワス ホニコス 各拾二両
石五味同煎濾过末澤

○又方

ワス ニ斤拾五両 ヲリホコッテ ニ斤二十両
コムテレメニテイ十 五十両 右三味煎大化
ヲリハ又ニ アルホイニ 各八両

○又方 諸瘡潰蝕不愈者此方典イニクアニト

ハニリコニ等分碾合傳之立効
ケールワス 八両 ヲリリアゼト十 十両
ホーヌキ スハニスクルウニ 各二両

右煎煉如常法

○エムハラスドギヘニスイブニ

熱冷

治癰疽疔瘡内外吹乳天蛇瀉穿一切惡瘡及
大肉破爛或肌皸裂長折樓損傷蛇蝎蝮毒

ヲトリロサロニ

ヲトリメルテロルニ各拾三両

セイライフ六両

右三味煎化

タイラセチフタ

ホルスアルメニヤ

各三両

サニコヌタラブニス

二両 右細末下之再煎化故冷

○又方

ヲトリレスホニス

ニ拾五両

アキツキヤホルコ

十三両

ケールワス

二十両

タムテレメニテイナ

七両

アセイニニ合

右五味煎化瀉去滓再上○

文火用榴木急手拌開候水氣漸尽激沸既

定下火

サニコヌタラフニス

五両

メイニイ

三両半

右細末下之研定再上火煎煉

半取許放冷

サントレイノニ

五両

アールカルス

七両半

右極末候膏冷下之

○又方

ヲトリロサロニ

三両

ヲトリメルテロルニ

十五両

ケールワス

五十両

右三味煎化

タイラセチフタ

二両三毫

セイモニロケリイ子

二両

右細末投前件茶

中研令白慢火煎沸數頃下次放冷

カニワラ 二兩 ホウサントロ 二兩半

右末下之隨冷膏成矣

○又方

クワリカニワラ ホールスアルメニヤ

アールス 去皮曝于考 ウエツテワス 半斤

右四味以微火化開必不至煎沸以手輕之捻搥成膏如冬夏硬稀不中用則增減蠟油

○又方

クワリカニワラ ケールワス
ヨリホコヘツテ 各十兩

エニハラストテヤハルマ 十五兩 右煎化

ホールスアルメニヤ 各十兩 アルホイニ 各十兩

右細末放冷后下之

○又方

クワリメルテロルニ ウエツテワス 一斤十兩

アセイニ 五合 右漫火煎沸水烟既尽后下火

ホールスアルメニヤ タイエセケラーク

サニコスウラブーニス コラトルヒイリ 各三兩

フロルクスマルース マステキス 各二兩二分
五厘

右細末下之再上火候變和後冷

○又方

ヲリリシホニス一介

ケトルワス 二十両

セルーサ マステキス

ウーヒスカフニナリリス

各五両 カニフテ 二匁

メーニイ 二匁半

ヲリハ又ニ一両半

アセイニ

右煎煉如前方傳云此方ハルコニス寓居
長崎販常所調煉者也

○又方

ケトルワス一介

ハルス 二十両 ヲリカモル

ヲリレリヨトル

ヲリイヘリコニ

ヲリロサロニ 各二両半

ハ子キレイ子

ホトルスアルメニヤ

アリエケヘルセイ 各三
五両

ヲリテキスコニソトリタマヨトル 十三両

ヲリテキスサルテイヤ

アリストロキヤ 各八両

右脂油蠟供製化其余為末次第下之

○又方 以上テヘニスイフニ之方多以ホトルスアル

メニヤ タイラセゲフータ為至此ニ味西垂玻璃

沙固之所産 本邦最所難得者也故ハルマニ

ス新造此方平素調製衣以充用云

ヲリロサロ

ケトルワス 各二十五両

アキツキヤホルコ 二十両 コムテレメニテイナ 七両
ヨリハズニ 五両 メテ 一両 アセイニ 七両半

右文火煎火溶小烟稍定后

メイニイ 七両 ラービスカラニナルス セルガ

各五両 カニフラ サニトニイノニ 各二両半

ヘニスロイニ 一両

右各為細末下之再上慢火徐々煎化將

柳棍留不頻攪令勻候油色殷紅馥郁滿室下火

サニコスタラコロニ 二両 アーカルス 七両半

為細末下之即膏成矣 ○宝曆七年因訓

所制之テヘニスイフニ冬夏通而用之不嫩不硬四

取供得所宜以為后来分量之定法ヲリレスホ

ニス拾二両ケルワス 貳拾五両アキツキヤホルコ六両コム

テレメニテイ十四両アセイニ拾五両右文火煎化將柳

棍枝頻攪勻勻任手杏則油水激沸而騰躍鍋

外且其菜不和候水烟尽下火サニコスタラコロ

ニス貳両半メイニイ五両サニトレイノニ貳両半

ラービスカラニナルス三両三両アーカルス三両三両

各者細末下之放冷

○アキツキヤホルコニテイヘニスイフニ

治女子面上粉刺細粟杏瘡痘面凡疹小兒諸瘡
ハルミニク寓居長崎貽常制衣而用之手足
胼胝並治

サニトシイノニ

細末十四

ウエツテワス

五兩

右ニ味盛夏冷枳日下曝梓以柶瓦碾和
成膏

○ 丑ニハラスノハナリニ子ルホロニ 性寒

治手足拘攣筋急骨痛或痿弱或麻痺或
旧癰癩痕各痛或遠年層節不遂者

○ 丑ニハラストヲクスコロニスヲム

アモニヤクニ 各四兩

ヲトリヘルヘイキ

ヲトリテレメニテイナ フトリリスヒツセイ 各二匁

右五味煎煉成膏 ○ 老人骨痛椎羊牛或豕
鹿之生皮而傳神效

○ 丑ニハラストヤホシホリコス

性平

治力刃所傷調養失宜及因風寒瘡口敗露
痛甚是等悶者腕肉破腫死肌皸裂或湯澆火
傷痛苦不止者皆効

ヲトリシホニス

拾二兩

セイラメーフ

六兩

右ニ味煎火化

フラニトロート

六兩

セルシウス 四兩 下リハ又ニ マステキス 各一兩

カニフコトニ 三錢

右五味を細末下之△湯火傷先傳イニクエニト
アホドストロルニ以此膏覆貼即効

○此ニハラストデヘニスイブニヒキヨウニス 性冷

治癰疽諸疔一切無名腫湯種、惡瘡刃斧傷
瘡浸淫頑瘡曠月持久不斂者此方專至生

層定 痛

チーリロサロニ 各五合

セイレイフ六兩 右煎化

ワクチイラーデキスアルテイヤ 五合

レニスウイニ一斤十兩

右別用淨鍋一口煎化與上茶俱合上火

リイタリキリヨムアウルイ 各六兩 煎化

アルガニテイ 各六兩 煎化

ホーリアヨース 各六兩 煎化

チーテキスエニメーリタマヨールス 各五錢

マステキス 一匁五分 煎化

サニクスタラコニス 一匁 煎化

チーニ又ニ七兩八分 煎化

ホーリスアルメニヤ 四兩

右三味為末投入上茶時文武火煎化
アキツキヤハルセイ アキツキヤワウハニ各拾二両
下之放冷

○五石六石トメリロート

性燥

治癰疽疔疔症上皮如牛領陷面色敗者失
榮肉龜結腫痛贅累年在体聚散供難或
中凡拍赤手車馬墮仆阻痛欲死者並神效心
傳一切熱症

ステクウエツル 十二両

フローリスカセムル

フローリスヘ子キレイ子 各三錢二分

右三味清水浸漬和藥將微火徐烹熟向日
下曝乾搗末為末
アモニヤクニニ兩半 へタリヨムニ兩錢

右二味醇酒浸煎

スハンスヒータ 戴帽

右細末投入再以文火煎開酒氣半減時濾過

取其汁

セイライイコ 拾二両

コムテシメニテイナ 二両

カトリホツコ 四両

カトリホツコ 各二両四錢

右五味共煎茶汁供拌勻再上微火初三味碎
搗為末者復同下之少間煎煉

フロリススリイ子 各三錢
ラテキスサルテイヤ 五分

カルクモニム

イリヨース 各二錢二分

マリヨラア子 三錢 四兩

コロクスシリエニタリル 各セイモニサルテイヤ

ニモニ子 右十味細過投入上茶中攪令勻

ステラクスカルメイタ 二兩半 下之即去疆火放冷

△肉瘤結核累歲在身者先用上ニハラストタ

ニラノスユメリグーリヨム 薄帛傳之吹用此膏

封貼或以水銀碾消而塗攤膏之裏面以錦

帶下幅二三寸許者重卷定要每漏障之

處是消散方中最第一也

○又方

ムムテレメニテイナ 各五兩

ナムクラーカ 十兩 フロリスメリロート 七兩

名煎火化

フロリスカモメル 各三錢 各五分

カ子 各三兩 各五分 各三兩

ラウロキ...

ラートキスサルテイヤ

アヒト...

ヲリハ又ニ各五両

スワニスヒイク

アソニケヘルセイ

右者未下文火煉放冷

○立ハラストムスラキニブス

性温

治五癆惡瘡七種皆癰乳疽失榮癰瘰癧疔
滯不辨肉色大小月日深遠或大痛或不痛或
内膿既成或未成等症凡穩和而排膿頭挫
大勢其功迅速每出於此方者
ヲルトロハニマルハ
セイモニ子キレイ子

セイモニリイ子

右三味加麻油少許搗碎絞取其汁

ヘタリヨム

アモニヤク

ヲホハナノクス

各四両ヲリレリヨルニ

ヲリリカイ子

各七両

ワイタリキリヨムアルカニテイ

七両

コムテレメニテイナ

七両

オキワキヤホル

各九両

セイヲマレイラ

○右拾味煎煉瀝去滓柴上蒸合再上慢火百煉

○炭公馬刀銛按或跨馬便癰殿日眼附骨等

難成膿者上ハラストテヤキロニコムコムスサ合

研和傳之布緊縛不日即成膿為至妙

○カスルナ方上葉加ホーラクスニ麦

○支方

カルトロハニマル

サニフイニ 各五拾四

右洗淨去上刮其皮之青自者去心用清水二

升煎至減半濾過取汁

セイモエリイ子

セイモエ子キレイナ 各三拾四

各為粗末蘆入葉汁搗令如稀糊盛貯乳鉢

旦夕置之日下晴明之處經五七日用麈布代袋

收入固束其口極力而絞定取其汁

ヲーリカモメル

ヲーリレリヨールニ

ヲーリカテロロム

各十兩

右投上葉中用柔温火煎化頻拌不停手候水

氣尽約以帛撚蘆葉中点火燃着而不曝為度

コムフモニヤクニ

コムサカヘーレ

コムヘタリヨム

各五兩

用陳米醋煎溶入上葉再火

ヲーリテレメニテイナ 七兩半

テールワス 一介

上葉煎沸中下之試取一七放銅盤得所宜則

下之葉添油如稀漆蠟

コロクスヲリエニクーリ 二両半
右細末煎膏成故冷際下之

○又方

セイモニヘ子キレイ子 七
ヲリカモメル 二斤 右煎 溶令如稠糊絞取汁
コムテシメテイナ 二両 ケールウス 十二両半
右三味別煎化投上茶供煎
サカヘーニ 用末醋浸漬經宿搗拌投入上茶
コロクスヲリアニクーリ
為末候上茶去出冷盤所相半而下之

○又方

セイモニヘ子キレイ子 各二両半
ヲリカモメル 十兩 一斤十兩
カルワ又ニ サカヘー又ニ アモニヤクニ
ヲホハナークス 各五匁 コロクスヲリアニクーリ 二匁
右煎法煉如常法

○又方

ヲトリムカキニ アモニヤクニ
カルハ又ニ ヲホハナークス 各二兩
コムテシメテイナ 四兩 コロクニイ 二匁

七味方一斤

右七味慢火同煎膏成一方加葱白根二
東阿膠二兩

○生肌収口且能滅癩
生肌収口且能滅癩

ヲリリカモメル ニナ西 リイタリキリヨムアウリイ
ニ斤 ケールイフ 隨冬夏硬軟得中

右之味煉化成膏

○性平
丑コハラストタラーノスコレメリタリヨ

○性平
不問男婦老壯肥瘦虛實癯瘵結核五癆六

痛諸般無頭各平場惡核之瘡瘍累年在

身不能揭動或金布而朝某之毒結作腫難患尋
到或杖痕棒暈折撲白脫痛苦作悶飲食不進

二便者之熱閉而不利者及婦人月事不調帶濁
之際卒然起塊及伏案癥瘕鼓脹青竹節白虎

歷節中凡拘牽等症隨手用之每未必應驗凡
散塊消結之妙重內外有隱托之方每出左右者

經驗神効不可臆度

アキリキヤホルシ セヒイハル十 各一斤

ヲリニテヒニ子ス 去鴨用燒耐 口ニフルコル 燒耐摺去

膳 反ハニスライウニ 一升

石五味煮候一沸去滓

アルトイシ 二ルハ

右三味搗碎攪取其汁各天碗投入上茶再煎

チーリカモル チーリフ子一ニ

チーリスヒツセイ チーリレリヨルニ

チーリラウリイ子 各五西

五味別將淨錫煮化盛貯乳器

リイタリキリコムアルカニテイ 一升

考極細末浸入乳器中窮力乳用器重封器

口置之烈日頭處日、碾定厚勿沈凝秋冬或

西日置之煖灰上歷七日后共上茶供撈白

上文武火煎煉

チーリハニ 三ロ一ヨスヨルアニク 各三西

コムアルホルニヨム 五西 フロリスカモル 貳撮

右細末下上茶中

コムラシニテイナ 五西 ケールワス 一升

右別罐煎溶再下

スラニカチーリ 五西 アルカニカヘイヒイ 十五西

廢供入尾鉢將指頭右轉左轉急、碾開投

入煎薬中去爐火候冷熱得所

ナムラカ 五兩

下茶中以手揉勻即膏成矣△瘰癧瘰癧核五
瘰癧六福石癰肉鬼等症用此膏敷患上將
極薄之錫鉛皮壓其上以布緊紮定而五日
一換如上方不日結腫消散如神此方百發百中

○用水銀摩鉛銷裏面扣丸速々用銀箔貼
權膏傳之在佳△イニクニトカニフラトニ
化開水銀五分之二加傳甚妙

○又方

ヲリカモル ヲリア子 ヲリシリヨ
アリニケヘルセイ ヲウリイ子 各五錢
ヲリテシニイナ ステラクスカルマイク 各二兩
リイタリキリヨムアルガニイ 細末
アルカニテヘイヒイ 各三兩 テルロス 一斤二兩
右へイヒイヲリテシニイナ研開共茶葉同煎
下末茶

○又方

名ニラストカラサテイヤ 名ニラストケレイニヨ 各十
アルカニテヘイヒイ二兩 サヒイナ 一兩

サニフクダテコロニス 毛四分 ラリハスニ 以上三味ニモ

右煎煉妙常法末茶三味後下

○文方 地方最第一之妙方也効驗如神

タラーニス 用燒耐泥淨去脂 拾貳隻 口フルコルニ 初各自者

フロリスカモル 貳撮 ヲリリフニケレム

ヲリリレリヨルニ ヲリリカモル 各八分

右三味用燒耐三行半漫漬一周時微火煎煉

水氣尽責烟消后去滓

リイタリキリヨムアルカニテ 二行

ヲリリコロニイ 四兩 マキツキヤホル 七兩

ウエツテロス ニテ六分 ヒニケニイ子スヒコリイナ 四分

アルパニテヘイヒイ ニテ五分 マステキス 三分

メラ フムヒイヌス コルホーニヤ 各三分半

ステラクスカルタイク 十三分

右蠟油之外為細末投入上茶中○候茶和即

下火頑入尾盤或次瓦鍋柔温而入水銀令攪勻

如放入銅鍋則沈墜者鍋底徒不益益莫能

成膏凡水銀配合之法既加斯

○エニハラストケニリウニ 文名ケニイニヨムスラビス 性冷

治折傷骨節疼痛者散塊清血

飲口生煎

ラービスカウ三ナールリス、ホ、テシニテイナ 各三兩半

リイタリキリヨムアルカニテイ 未七兩半、メラ 貳匁

ヲリリホルトカル七兩半、カニラフ乳 貳匁半

マステキニス、ヲリハヌニ 未 各二兩

セルーサ 未、トウニヤ 各二兩半

ハマスノイニ 五兩、セウウイフ 大兩

右十二味要煉如常法

○又方

ホルトカル 三十五兩、ケールワス 六兩

右煎溶、ヲリ父ニ、ヒツトルヨルニ 各半兩

細末下ハルコスマイニ 拾五兩、タイラセヲ一タ 半兩

リイタリキリヨムアルカニテイ 七兩半

各為末下之慢火煎候溜沸既定細泡消

尽之為膏成之度下火

○又方

ホリスキ 二兩半、右煎沸

メラ、セツヘレイス 各四兩

カイト石トロニト 二兩半、ホリリハニフーリ 二兩

四味為末下

○ 卫ニハラトステツテコム

性冷

久癰蝕爛变为痔或鼠瘻坐馬癰便毒疔瘡潰后内毒苛烈外状如蝟百药成空驗者此方主之凡生肌長肉消毒定痛之功无不立

○ 倘實取斂膏中之藥王者也

ヲトリレスホニス
各三兩
ヲリイヘリコ
カルハスニ

アモニヤクニ
各十兩
コムテレメニテイナ
各五兩

ラヒスカタマナトリス
モミイ
各五兩

○ サカヘトスニ
メラ、ヲリハスニ
各三兩

コラアルアルライ
コラアルヘニイ
各二兩

ラヒスマニカ子ト
ニラテキスアリストロキヤ
各七兩
コロクスマルトス
アエテイ子ヘラアル
各三兩

ホル子ルカテ
二兩

右蠟油煎化余葉或厚末或磁定下之上葉之法宜照見△老人遠年打撲作痛△ハラストラス

コロリスヨム茅方煎化敷之甚妙

○ 卫ニハラトスハラクラツブ
一名ヲホテニ
治癰疽疔瘡一切惡瘡曠日不就愈膿血

浸淫流注為癰者

リイクリキヨムアルカニチイ 細末拾四

ラトリカラフス 二十兩 アラクリニホツスイニヨ 五兩

右三味研勻盛貯次凡器固封其口曝於烈日邊
塞雨雪之取置之爐邊

ヒツトルヨルニ 一兩半 アルイニ 二兩半

ホイルスアルメニヤ 五兩 ハルス 十兩

右四味為末投入上釜慢火煎化

スハニスクルウニ 三錢

為末下之煎沸數次候膏成試投水中以手探

檢不粘貼為度將廣布幅浸入藥中以柙篋輕
拂布之表裏卷而貯之隨用截而傳之或同瘡
之大小膿之稀稠重留登而傳之膿窠盡瘰
覬花癩瘡等ホニコス一味水煎洗淨患處
傳之

○又三方

テールハス ラトリレスホニス 各二斤

カルホトニヤ 半斤 ラーヒスカラフニナリ 三兩半

ヲホハナクニス サカヘトニ カルハ又ニ

ヘタリヨム アモニヤクニ 輕西アラアルイ

コラアルレヘシイ各三匁

モミイ

メラ 各二匁 フリハヌシ 各二匁

アシテモト子コレシイ コロクスマルス

ホル子ルカシラ 各三匁

此方共ステツテコム性主治供相同茶物配製願
亦同唯異分量耳煎煉之法可照考以布薩
而貯之如上法

○又方

セ子一フル セ マステキス 二匁

フリハス 二匁 メラ 二匁 ワス 二匁

リトリレスホニス 二匁 メイニイ 二匁

アモニヤクニ コムテレメニテイ十 各五匁

煎煉同上

○エニハラストヘルスフライエト

治瘡瘍潰爛不止

ハルス フリリカラフス

ケールワス 各十匁 メテ 二匁

煎煉化瀉去滓

ヒツト ニ匁 各本下之

○エニハラストヘトウニカ

○專治頭面腫瘍

ウエツテラス 半斤 ヨムレニニイ

ハルス ホースキ 各二兩半

コムテレメニテイナ 四兩 フラニターコ 篋取汁四合

右研白慢火煎煉候水烟尽為度下火瓦頭

瘍忌傳香氣猛烈油膩液治等物故止マ

ニス新設此方云

○又方

ハスル ケールリス コムテレメニテイナ

各五兩 マステキス ヲリル又各五兩 アモニヤクニ

七分右煎化 へトニカ 一兩半 阴干為末下之

○アニハラストカラホルル 性温

治便癰

ケールウス

リイ子

メリロート

アフセニテ

アリシケルセイ 各十兩

ヲリリカモル

クミイニヨ

コムテレメニテイナ 各三兩

○アニハラストサニトレイクニ

治諸般毒頭面腫瘍疔瘡未成者

サニトレイクニ

アキリキヤホルコ 各五兩

ワス 七両

ヨリハヌニ 四両

フロリカカモル 三両半 コロクスヨリエタリ 二両

右蠟油煎化下出四味為末下之

○エニハラストカラナテ

去腐肉殺毒穿骨腫拒膿癰方

ウエツテワス メイニイ 各三両

ヒツトルヨルニ アルエニ 各三両

ヨリアラフス 夏用ナニ 冬ナニ 各三両 ヨリリスホニス 二両

右徐々煎化令如稠糊下出瘡毒劇者加

蛇骨ニ炙尤妙

○エニハラストアルト 飲瘡口

ケールワス メイニイ

アルイニ 各二両 冬夏隨宜 分量不定 ヨリリカラフス

煎化如常

○エニハラスト子ヤヨルス

治青筋骨痛

ハルス 一介 ヨリリワイルトヘルケニ 半斤

メイニイ 二両半 ウエニ 二両

右煎化氣尽為度

○エニハラストカラスヨテ

○治一切損傷

ウエツテウス 二十兩 子リハ又

子リアソシケヘルセイ各十兩 フムテレメニテイ十兩

スハニスクルウニ マステキス

カルハ又ニ 各三匁 煎煉如常法

○アニハラストキリヒヨシ 性平

治熱瘧疾 瘧腫疼痛

セ子ールコム 二兩 子リアソシケヘルセイ 四兩六分

ワス トウシヤ 各二兩六分

ロトス子 二兩半 マルナサ 二兩二分

○子リハ又ニ 三匁二分 コムテレメニテイ十 三匁一分

アルホニカニフラ 一兩二匁六分

煎法如常

○アニハラストテミニイニヨ

子リレスホニス 二斤 メイニイ 一斤

ワス 二十兩 フムテレメニテイ十 十兩

ワラントロート 五兩

○アニハラストアルカルミイテ

消塊定痛 跌蹶打撲 疝疝 狂氣之毒 皆治

ア子ノニ 三兩 ホル子ルカニフラ 三匁

メイニ 四両
ムスコス 二両

右考本

ワス 四両半
ヨリレスホニス 冬夏不定

右ニ味煎火溶下火候冷下末茶

○ 正ニハラストカリヨヒリイリヨルニ

散癩定痛

ヨリハ又ニ
メラ ハルス 各五両

ワス 十二両
コロクスヨリアエターリ 七両半

メイニイ 四両
ヨリリスホニス 一斤

○ 正ニハラストアルカルマ

治損傷完瘡口

アルホニカニフラトニニ 八ルス 十二両

リイタリキリヨムアウリイ 二両

カルタモニム 二匁
ヨリレスホニス 半斤

スフォルヒウニ 四両
サカヘーニ

ロハアルハ 各二両半

○ 正ニハラストアドストニ

治重臺瘰癧

ヲリハ 各一匁
カジフラ 各一匁

リイタリキリヨムアルカニイ 二両

ヲリリロサ 七兩 セイライフ 十二兩半
アールト 糸田中者 五兩

○ 正ニハラストアルホニフクトニ

治湯火傷

セイライフ 各五兩

セニライフ 各五兩

○ 正ニハラストヘイロウルテイ

治梅毒諸濕毒

ホニフス 飯取汁 アキリキヤホルフ 四兩

ヲリリレ又ホニス ゲトルワス

○ ヲリハ又ニ 各二兩

此方南蛮青膏也長崎之俗名其良客膏者是也

○ 正ニハラストカヨカ子ノル

治阴症瘡瘍冷疔冷癩

カリヨツヘルナケレニ カ子ノラ 各一兩

コムテシメニテイナ ヲリリカモメル

ヲリリア子ノス 各三兩 ケトルワス 五兩

ホーリ又ハラウニスリヤ 三兩

○ 正ニハラストア子ニトルニテ

治諸瘰癧癰癤核

ヨリリア子一匁 ヲリカモメル 各三匁

ヨリリアールト一匁 カリヨツルナチレ一匁

ケルルウス 四匁

○正心ラストテレスカ子一匁

治瘰癧毒

ケルルウス 四匁

ヨリリカラフス

ヨリリカモメル 各三匁 ハルス 三匁

サリリスラウニスリヤ

○正ハラストマリクキリス

近世長崎瘍科用此方代正心ラストクラ

ニスフコメリクイソヨム

アキソキヤアトカ リイタリキリヨムアルカニテ

各三匁 三匁半 ヲリハ又ニ アルカニテヘイヒイ 各四匁

右煎煉如常法

○又方

アキソキヤホルコ リイタリキリヨムアルカニテイ

各三匁四匁 フステキス メラ 各二匁

ハルス アルカニテヘイヒイ 各四匁

コムテシメニテ イナ七匁半

○ 正ニハラストテレイキル

專主收斂發背便癰諸痔疔瘡並皆治此方長崎鳩科楠林栗崎西等諸家為家秘第一之方原變弱之所傳也

リスホニス

リイタリキリヨムアワリイ

各斤三五四

アキワキヤホルフ

ナ五四

メイニイ 一斤三五四

コルホーニヤ

四斤

右ニ油煎開余ニ味為末攪勻冷水一分投入上武火以柀棍條頻々研和勿任手至水乳尽自然成膏矣

○ 正ニハラストコフニイトコハニリコニ

ラレイキル

イニク正ニトハニリコニ

右等分剪溶成膏專治便癰痔瘡作白雉愈者

○ 正ニハラストコフニイトコカニフラトニ

テレイキル

イニク正ニトカニフラトニ

右如上方專諸熱爛瘡眼淚赤腫鼻疾耳痛遊面凡泡火傷疔疔軟疔諸瘰癧等症宗性穩和而得效在速實生肌完口之良方也

○ 本方二十一方 同名二十二方

追加二十六方

通計六十九方

秘笈仙方卷上終

本方 二十一首 同名二十二方

透加 二十六方

通計 六十九方

秘製仙丹 卷上 終

云何 秘製仙丹 卷上 終

四下月

秘製仙丹 卷上 終

